



今年も注意!



日本タンクスチーン飯塚工場

汗をかくべき時はかく

金属の一種であるタンクスチーン製品メーカー・日本タンクスチーンの飯塚工場(福岡県飯塚市)では、ランプなどの使われる部品を製作している。一般には、プロジェクトなど、オフィスでないタングステンだが、「ロードマップ」や「プロジェクトマネージャー」など、機械に使われるランプに使用されている。

飯塚工場にはガス炉で材料を加熱しながら加工する工程があり、真赤になったタンクステンが見える。その場の気温は45度にもなることがある。金属材料グループ副幹の伊藤義勝によると、

さんは同工種を30年以上経験するベテラン。

「10年以上前は夏になると職場に置かれた塩をためてお茶を飲んでいた」と振り返る。近年は6月から9月にかけて会社がスポーツドリンクを供給。必要な水分補給を心がけており、1時間ごとにコップ1杯を飲む。「体のために汗をかくべき時はかいとほうがない」と汗を語る姿を見るからに健康そのもの。年間を通じて休むことをしないという。

夏場の健康を維持するため特に注意したいのが熱中症だ。気温が高い状況で体内の水分や塩分などのバランスが崩れたり、体温の調整機能がうまくいかなくなったりする症状の総称が熱中症と呼ばれている。最悪の場合は死に至る恐れもある。工事現場などの野外だけでなく、気密性の高いビルや

一般家庭の浴室で起こることもあり、場所を問わず注意が必要だ。熱中症の予防には、こまめな水分・塩分補給や休憩、直射日光を避けることなどが有効。夏には特に暑い環境で働いている人たちも対策を怠りなく、仕事に取り組んでいる。

熱中症

暑い場所でも、こう乗り切つてます



7月は1年で最も忙しい季節。「焼き台」の真上は600~700度Cにもなる。厨房(ちゅうしつ)の室温は約28度だが、「焼き台」の真上は600~700度Cにもなる。厨房に立つだけで汗が噴き出してくれる。

厨房スタッフは徳安憲一社長はじめ12人。平井幹敏店長はウナギを焼いて22年のベテラン職人だ。平井店長は、「焼き台」の真上は600~700度Cにもなる。厨房に立つだけで汗が噴き出してくれる。

「仕事場でも1日2回以上は水を飲む(平井店長)」。また「自宅では自分で入れた麦茶やほうじ茶、塩あめなどでミネラル分や塩分を糖分を補給するよう心がけている(同)」そうだ。

さらに暑さに慣れたまま、「できるだけクラーク(は使わない)と話す。不思議と夏バテはしていない」と話す。不思議と夏バテはしていない」と話す。

「夏バテは自分で入れた麦茶やほうじ茶、塩あめなどでミネラル分や塩分を糖分を補給するよう心がけている(同)」そうだ。

「夏バテは自分で入れた麦茶やほうじ茶、塩あめなどでミネラル分や塩分を糖分を補給するよう心がけている(同)」そうだ。